

クラス番号	635	担当教員名	石原 眞澄
テーマ	社会福祉におけるアート・コミュニケーションの役割と実践		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・Effect of a Positive Photo Appreciation Program on Depressive Mood in Older Adults: A Pilot Randomized Controlled Trial. International journal of environmental research and public health. 15(7) 1472, 2018. (https://doi.org/10.3390/ijerph15071472) ・高齢者におけるポジティブな写真鑑賞プログラムー実施可能性と気分改善効果に関する予備的検討ー. 日本写真芸術学会誌. 26(1)27-33, 2017. ・写真による自己表現とポジティブ・エモーションの意義ー成熟期における自我の統合に向けてー. 日本写真芸術学会誌. 25(1)37-44, 2016 <p>【研究課題】 うつ予防を目的としたエビデンスに基づいたアート・プログラムの開発と検証</p>		

ゼミナール概要

キーワード：ポジティブ心理学、自己受容、自己肯定力、社会参加、うつ予防、認知症予防、介護予防

【目的と方法】

人口の高齢化に伴い認知症の患者数は世界規模で増加しているなか、ここ数年社会福祉における高齢者対策として、アートを媒介に人々のつながりを育む活動「アート・コミュニケーション」の取り組みが美術館に導入され始めています。さらに、これまでの研究から高齢者の社会参加は、認知症予防や認知機能の維持に良い影響を与えていることが報告されていることから、今後アートを活用した参加型社会福祉のニーズが高まることが期待されています。

本演習の目的は、ポジティブ心理学をベースに、アートの持つ創造性、自己表現、コミュニケーションの「社会福祉」における役割や実践を学習することです。

授業方法は、ワークショップ形式による参加型授業を行います。自分自身でアート表現・鑑賞を体験し、アートの持つ可能性を感じることからはじめます。また、アート・プログラムによる支援活動や施設見学などの体験学習も予定しています。これらの体験やディスカッションを通して自分の「研究テーマ」を明確にしていきます。また、卒業論文に備えて、論文の書き方、文献レビューの方法などの基本を学びます。

【授業計画】

・3年次

前期：ワークショップ形式のアート表現体験や、実際のアート・プログラムによる支援活動や施設見学による体験学習を行い、ポジティブ心理学やアートによる社会福祉への取り組みに関する文献レビューにより基礎知識を学習します。

後期：研究テーマを明確にします。論文の構想を練り卒業論文計画書を作成して、論文に必要な情報収集を行い執筆作業を開始します。

・4年次 卒業論文の完成度を高めるためにゼミ内でディスカッション、レビューを行います。国家試験を目指している人は、夏休みまでに卒業論文を完成できるように進めていきます。

担当教員からのメッセージ



アート表現がひとにもたらす自己受容や自己肯定感などのポジティブな心理効果については、体験して実感することが最も重要だと考えています。その上で知識を身に付け、文章でまとめていくプロセスは、なによりご自身の成長に役立てていただけるのではないかと思います。エントリーシートには、このゼミで何をやってみたいのか、アートに対する思いや可能性など自由に書いてください。積極的なディスカッションを重ね、みなさんと一緒に有機的、創造的なゼミにしていきたいと思います！